

事例 1 多様な森林のモザイク的配置

(九州森林管理局 熊本森林管理署)



- 熊本県阿蘇郡西原村 大野国有林
- (左) モザイク的な伐採箇所(令和7(2025)年6月)
- (右) ドローンによる苗木運搬(令和7(2025)年6月)

林野庁では、山地災害防止や生物多様性保全等の森林の公益的機能を高度に発揮させるため、多様な伐期の設定や伐採面積の縮小・分散によりモザイク的な配置の森林(面的複層林)への誘導に取り組み、資源の循環利用を行いながら多様な森林づくりを進めています。

熊本森林管理署では、スギとヒノキの人工林で構成される管内の大野国有林84haを面的複層林に誘導するため、令和3(2021)年度から計画的な施業に取り組んでおり、令和7(2025)年度は、合計3ha(3伐区)の伐採を行いました。また、民有林へ普及することも目的に、観察しやすい村道沿いの9haの森林を面的複層林に誘導する計画を新たに作成しました。

施業の実行に当たっては、林業労働力が減少傾向で推移する中、伐採後の造林においてドローン※を活用した苗木運搬を行うなど、新たな技術も取り入れ、造林の省力化・低コスト化や労働負荷の軽減に取り組んでいます。

同署は、引き続き、計画に基づき着実に面的複層林施業を進めるとともに、現地検討会の開催等により民有林への普及を行い、モザイク的に配置された多様な森林づくりの推進に取り組んでいくこととしています。